

令和6年8月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和6年8月号」をお送りしますので、御高覧くださいますようお願いいたします。

8月28日に開幕するパリ2024パラリンピックに、ゴールボール女子日本代表として八戸市出身の天摩由貴選手が出場します。

ゴールボールは、目隠しを着けた1チームあたり3人の選手が、鈴が入ったボールを転がすように投げ合って得点を競う競技です。

天摩選手は、同競技の代表に3大会連続で選ばれており、前回の東京大会では主将としてチームをけん引。左足首を負傷するアクシデントに見舞われながらも、キャプテンとして仲間を鼓舞し続け、銅メダルの獲得に貢献しました。

東京大会後も、経験に裏打ちされた正確なプレーや鋭い洞察力、複数のポジションをこなす柔軟性などを武器に活躍し、今大会でも中心選手の一人として役割が期待される天摩選手。皆さんで熱い声援を送りましょう。

◎皆様へのお願い

職業、役職、連絡先などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 8月号 レポート

令和6年7月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	公民館サロン再スタート 町畑地区で会合
(2)	八戸市 省庁関係者に市政説明
(3)	木の遊具や工作楽しんで 八戸市が森林資源PRイベント
(4)	八戸市公会堂 命名権はSGグループ
(5)	高校生が企業の魅力発信へ 八戸市の体験事業スタート

【産業】

記事	概要
(6)	VISITはちのへ初公表 八戸エリア23年度旅行消費額
(7)	八戸・鮫にゲストハウス「リバーランズ・ロッジ」開業
(8)	八戸産夏野菜振興を 八戸夏やさいマルシェ&七夕ブイヤベース
(9)	菱刺し、裂織ツアー商品に 米国旅行コンサルタント視察
(10)	キンメダイとムラサキイカ 八戸で初の試食会開催

【地域】

記事	概要
(11)	マチニワで地酒サマーフェス 夏にお薦めの酒飲み比べ
(12)	八戸七夕まつり開催 市民手作り飾り 夜風に揺れ
(13)	友好都市、中国・蘭州市の中学生来八 対面6年ぶり変わらぬ絆
(14)	森のおとぎ会始まる 境内に広がる物語の世界
(15)	古井さん(八戸) グローカル人材 三社大祭で育成

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	八戸市美術館の外壁使い 名作をグリラ上映
(17)	工藤さん(根城中) 世界ジュニアゴルフ4位
(18)	是川縄文館特別展 編組製品 最新技術で解析
(19)	八戸、ライブイベント多彩 夜の中心街ににぎわい 来年3月まで
(20)	南郷サマージャズフェスティバル2024開催

【行政】

記事	
(1)	<p>公民館サロン再スタート 町畑地区で会合</p> <p>八戸市は本年度、熊谷市長と地域住民が意見を交わす「市長との公民館サロン」をリニューアルし、初めての会合を7月8日に町畑地区で開催した。同事業は「対話と共感」を掲げる熊谷市長が政策公約に掲げた重点事業で、2022、23年度に市内25か所を一巡。本年度からは「みんなで行く地域づくり」を共通テーマに設定し、公募制で行う。意見交換では、出席者から町内会の現状や課題について意見が出され、市長は、連合町内会の基盤強化に向けた補助金を創設したことを説明し、活用を促した。</p>
(2)	<p>八戸市 省庁関係者に市政説明</p> <p>八戸市は7月17日、東京都内で、市にゆかりのある中央省庁関係者らと意見交換会を開いた。中央省庁の関係者のほか、市の幹部ら約40人が参加。市政報告で熊谷市長は、八戸三社大祭の山車制作展示施設の完成や、スピードスケート国際大会の誘致、全国朝市サミットの開催決定などを報告。水産業の再興については「つくり育てる漁業の取り組みなど少しずつ動きが見えてきた」と話した。また、市幹部と省庁関係者の懇談も行われ、市政について意見が交わされた。</p>
(3)	<p>木の遊具や工作楽しんで 八戸市が森林資源PRイベント</p> <p>八戸市のマチニワで7月19～20日、森林資源PRイベント「森のみりよく『ぬくもりフェスタ』」が開催された。地元木材の利用促進や普及啓発を目的に市が初開催し、木の遊具や工作体験、漆産業に関するパネル展示などが行われた。市は本年度、乳幼児木育等推進事業費として森林環境譲与税を活用し、イベント開催のほか、市内保育施設等116事業所及び今年4月2日以降に誕生した乳児に青森県産材の積み木の配布を行う。オープニングセレモニーでは、熊谷市長から出席した市内3園の代表園児に積み木が手渡された。</p>
(4)	<p>八戸市公会堂 命名権はSGグループ</p> <p>八戸市は7月19日、市公会堂・公民館に初めて導入するネーミングライツ（施設命名権）について、スポンサー企業を東北医療福祉事業協同組合（八戸市）に決めたことを明らかにした。呼称は「SG GROUP ホールはちのへ」。契約期間は10月1日から2029年9月30日までの5年間で、金額は年770万円（税込み）。</p>
(5)	<p>高校生が企業の魅力発信へ 八戸市の体験事業スタート</p> <p>高校生の目線で地元企業の魅力を探り、発信することで地元定着や地域振興につなげる八戸市の事業「チャーム∞（エイト）」のキックオフミーティングが7月25日、市内で開かれた。昨年に続き実施する事業で、本年度は市内に事業所を置く企業26社と高校8校から43人が参加した。生徒はグループに分かれて企業訪問し、見学やインタビューを実施。レポートにまとめ、e-book（電子書籍）で公開するほか、来年1月には活動成果を発表する。この日は、高校生が参加企業の担当者と同顔を合わせ、会社概要や製品の説明を受けたほか、仕事のやりがいなど積極的に質問し、今後の取材に向けて企業への理解を求めた。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p>VISITはちのへ初公表 八戸エリア23年度旅行消費額</p> <p>VISITはちのへは、来訪者の観光消費額や来訪目的などを調査し、平均旅行消費額を公表した。アンケートは、八戸圏域8市町村の観光地や宿泊施設など76地点で1163人が回答。2023年度は宿泊客（連泊を含む）が2万6442円（前年度比7.0%増）、日帰り客は5214円（5.7%減）。平均宿泊数は1.67泊（1.5%減）で、リピーター率はビジネス客や帰省客も含み、7割以上だった。収集したデータを分析し、より多くの人がお金を落とす新たな観光施策を検討するほか、消費額拡大に向け、圏域全体でデータ活用を促す。</p>
(7)	<p>八戸・鮫にゲストハウス「リバーランズ・ロッジ」開業</p> <p>八戸市の「カイトック」は7月1日、運営する同市鮫町のアウトドア専門店「リバーランズ」の2階にゲストハウス「リバーランズ・ロッジ」をオープンした。国内外の客に長く滞在してもらい、種差エリアを楽しんでほしいと開業。観光誘客力アップに向けて、市内事業者が種差エリアの宿泊・飲食施設の改修、再建などを行う6事業の一つで、VISITはちのへが地域計画を取りまとめた観光庁の補助事業に採択された。種差海岸エリアの魅力向上を目指し、同社が提供するシーカヤック体験などのアクティビティと宿泊を組み合わせた新たな商品も造成する。みちのく潮風トレイルの通年観光を目指し、冬場の閑散期の誘客にもつなげる。</p>
(8)	<p>八戸産夏野菜振興を 八戸夏やさいマルシェ&七夕ブイベース</p> <p>八戸の農産物の認知度を高めるため、市内の水産業関係者有志でつくる八戸ハマリレーションプロジェクトと市は7月14日、「八戸夏やさいマルシェ&七夕ブイベース」を同市三日町のはっちで開催した。伝統野菜「糠塚きゅうり」を使った冷菜やパンの無料提供、地元農家による直売、八戸港で水揚げした魚介類のブイベース販売が行われ、多くの市民などでにぎわった。南郷地区で糠塚きゅうりを栽培する水野浩司さんは「お客さんの声を直接聞いて、売り方を工夫できる。素材の使い方を知るきっかけにもなる」と充実感をにじませた。</p>
(9)	<p>菱刺し、裂織ツアー商品に 米国旅行コンサルタント視察</p> <p>日本への少人数や個人客の体験型ツアーなどを手がける米国の旅行コンサルタント「タンポポ・ジャーニーズ」のオーナー米村古紫季さんが来八した。八戸市博物館では、菱刺し作家や南部菱刺研究会、なんぶ民藝のメンバーと交流しながら、収集されている民芸品などの地域に受け継がれる文化を視察した。訪日客は、地元の人との交流を好み、民芸品は需要が高いという。同社は今後、職人との交流や体験をする小グループツアーを商品化し、2026年の催行を目指す。</p>
(10)	<p>キンメダイとムラサキイカ 八戸で初の試食会開催</p> <p>八戸港に水揚げされるキンメダイやムラサキイカ（アカイカ）の販路拡大に向け、水産卸売業者の八戸魚市場と開洋漁業（八戸市）は7月12日、加工業者や飲食店を対象とした試食会を初めて開催した。同港に水揚げされるキンメダイは北太平洋の天皇海山海域で、ムラサキイカは北太平洋漁場でそれぞれ漁獲され、船上凍結して鮮度を保持。主力のサバやスルメイカの不漁が続く中、地元の水産業界はまだ認知度が十分でないキンメダイとムラサキイカの魅力を広く発信し、さらなる消費促進を狙う。当日は、刺し身やキンメダイ缶詰を使用したせんべい汁、炊き込みご飯など計18品のメニューを用意し、約170名の来場者にさまざまな食べ方をアピールした。</p>

【地域】

記事	概要
(11)	<p>マチニワで地酒サマーフェス 夏にお薦めの酒飲み比べ</p> <p>青森県内の15蔵が参加する「あおもりの地酒サマーフェス」が7月5日、同市三日町のマチニワで開かれた。中心街の活性化と地酒のPRを兼ねて2022年に始まったイベントで、昨年は500人を超える来場があった。五つのブースに、それぞれ3蔵がお薦めの酒を用意。チケットを購入した来場者は、各ブースから1種類ずつを選んで味わった。追加で大吟醸など6種類の特別な酒や日本酒にあうつまみの販売なども行われ、来場者は夏にお薦めの酒の飲み比べを楽しんだ。</p>
(12)	<p>八戸七夕まつり開催 市民手作り飾り 夜風に揺れ</p> <p>第72回八戸七夕まつりが7月12日～14日、八戸市中心街で開かれた。市民に親しまれる夏の風物詩は、今回から大型飾りを取りやめ、市民参加型の「ストリート七夕飾り」にリニューアル。当初目標だった80個を上回る約130個の飾りが爽やかな夜風に揺れた。期間中の土日は歩行者天国となった中心街に出店が並び、路上ではライブや八戸三社大祭のお囃子稽古、子ども向けのイベントなどが行われ、多くの若者や家族連れでにぎわった。</p>
(13)	<p>友好都市、中国・蘭州市の中学生来八 対面6年ぶり変わらぬ絆</p> <p>八戸市の友好都市である中国・蘭州市の蘭州天慶実験中学校の生徒ら48人が7月16日、八戸市立根城中を訪問した。両市は1983年に八戸市の訪問団が中国を訪れて以降、教育などの分野で交流を続けている。新型コロナウイルスの影響で、両市の関係者が対面で交流するのは6年ぶり。両校の生徒は、音楽や体育の授業などを通してコミュニケーションを取りながら親交を深め、両市の変わらぬ絆を確認した。</p>
(14)	<p>森のおとぎ会始まる 境内に広がる物語の世界</p> <p>子どもたちが昔話や紙芝居を楽しむ「森のおとぎ会」が、7月27日～31日、八戸市の長者山新羅神社で行われた。八戸童話会が主催する夏休み早朝の恒例行事で、昨年100年の節目を迎えた。初日は島根県の昔話「猿のひとりごと」や絵本の読み聞かせなどが披露され、子どもたちは目をきらきらさせながら聞き入った。会場には小雨ながら約70人が集まり、ユーモアあふれる物語の世界に引き込まれた。</p>
(15)	<p>古井さん（八戸） グローカル人材 三社大祭で育成</p> <p>八戸市の古井茉香さん（早大休学中）は、グローバルな視点や経験を持ちながら地域の活性化や発展に貢献する「グローカル人材」を地元の祭りを通して育てようと、中高生を対象にした「おまつりカレッジ」を開催した。カレッジには市内の中学3年から高校3年の5人が参加し、三社大祭の歴史を学んだほか、山車小屋見学や山車の制作を体験。ワークショップでは、英語で課題を共有し、海外向けに英語の動画を制作し、祭りの維持が難しくなっていることなどを訴えた。古井さんは「祭りから生まれたグローカル教育として新しいモデルになるはずだ」と力を込める。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p>八戸市美術館の外壁使い 名作をグリラ上映</p> <p>7月5日夜、八戸市美術館の外壁に突如、映画が映し出された。八戸クリニック街かどミュージアムが企画し、新たな映画体験を提供しようと、グリイベントとして市美術館と共催で実施したものの。この日は午後6時半過ぎ、市美術館外壁をスクリーンに見立て、俳優の故オードリー・ヘップバーンさん主演の「ローマの休日」の上映会がスタート。道行く市民は、闇夜に名作が浮かぶ情景に驚きながら、足を止めてつかの間の映画鑑賞を楽しんだ。</p>
(17)	<p>工藤さん（根城中）世界ジュニアゴルフ4位</p> <p>7月9日～11日に米国カリフォルニア州サンディエゴで開かれたIMGA世界ジュニアゴルフ選手権で、女子11、12歳の部に出場した工藤夏姫さん（根城中）が4位に入った。約90人が出場した同部門は、合計3ラウンド（各ラウンド・パー72）。工藤さんは、初日に77と出遅れるも、2日目に67、最終日に69と猛チャージ。優勝した選手に3打差の通算3アンダーで締めくくった。2日目の67は今大会の同部門ベストスコアだった。工藤さんは4月に開かれた日本代表を決める東日本決勝大会で優勝し、今回が初の国際大会出場。渡米前に八戸市庁を訪ねた際、来年の出場権が得られる5位以内を目指してプレーすると語っていたが、見事実現した。</p>
(18)	<p>是川縄文館特別展 編組製品 最新技術で解析</p> <p>八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館は7月13日から、特別展「縄文の編み／組みの探究」を開催している。最新技術で縄文時代の編組製品の技法や素材を解明し、全国各地で出土した籠や復元品を展示。同館と植物考古学者の佐々木由香氏は、「編組技法からみた縄文時代の技術知の解明」をテーマに、2022年度から中居遺跡の編籠などの研究を進めており、今回は共同研究から明らかになった籠の素材や製作技法を紹介するほか、縄文時代の植物利用や資源管理に迫る。縄文人の「超絶技巧」を目の当たりにできる展覧会は、9月8日まで。</p>
(19)	<p>八戸、ライブイベント多彩 夜の中心街ににぎわい 来年3月まで</p> <p>八戸市中心街で、夜のライブイベントが行われている。同市三日町の「はっち」では、歌や大道芸などのパフォーマンスが楽しめる「はっちFRIDAY LIVE！」を、来年3月まで月1回程度開催する。さまざまな表現活動を見てもらうため、出演者は全国から広く募集。7月19日の初回公演では、同市と大阪市のパフォーマー2組が、歌とバルーンパフォーマンスを披露した。このほか、市美術館前広場マエニワでは、昨年度も好評だったキッチンカーが出店して飲食しながら音楽を楽しむ「音楽の夕べ」を10月まで月1回開催予定。文化芸術に触れながら、中心街のにぎわい創出につなげる。</p>
(20)	<p>南郷サマージャズフェスティバル2024開催</p> <p>北奥羽地方最大のジャズの祭典「南郷サマージャズフェスティバル2024」が7月27日、八戸市のカッコーの森エコーランドで開催された。ピアニスト泉沢果那さん、サクソ奏者ユッコ・ミラーさん、同市出身のトランペット奏者類家心平さんなど国内外で活躍するジャズミュージシャンが登場。終盤は、観客席からのアンコールに応じ、出演者がセッション。圧巻のパフォーマンスに会場は最高潮の熱気と拍手に包まれた。当日はあいにくの雨に見舞われたが、詰めかけた約800人のファンは、雨をものともしない熱いパフォーマンスに酔いしれた。</p>

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただいております。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

- ① 寄附金の使い道を指定できる**
震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。
- ② 税金が控除(還付)される**
控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)
- ③ お礼の品がもらえる**
八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 番沢 啓司 [主査] 齋藤 千聖 [事務員] 浜井 章代

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記4つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税



ふるなび



JRE MALL



送付先

広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

